

令和5年度

鳴門市第一小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現
- 学校と家庭が連携し、課題に対して粘り強く取り組む児童の育成

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 池内 香絵
- 委員 校長 野村篤, 教頭 佐藤由典
教務主任 阿部富子, 特別支援 野口彰代
田中律子(1年), 辻岡尚道(2年), 樋谷幸司(3年)
河野泰宏(4年), 金澤建司(5年), 数尾大樹(6年)

校長

野村 篤



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や研究授業、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙数が少なく、正確に文章を読み書きすることに課題がある。 ●学力の二極化が見られるところもある。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につく、それらを活用することができる。 ・語彙数を増やし、正確に文章を読み書きすることができる。	・小テストや宿題などで既習内容を繰り返し学習させ、定着をさせる。 ・問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインを引いたり、丸で囲ませたりする。 ・タブレット端末等を効果的に活用して「個別最適な学び」を実現する。	・引き続き既習内容の定着を図るため、繰り返し基礎的・基本的な問題に取り組む。 ・日記や振り返り等、様々な機会を捉えて文章を書く機会を増やす。	・朝学習や宿題などで、既習内容の繰り返し学習に取り組み、基礎・基本の定着に繋がったが、全ての児童の定着には至っていない。 ・授業を通して振り返りや感想等を書く機会を、十分に設定できなかった。	・既習内容の繰り返し学習により、基礎・基本を定着させる。 ・タブレット端末を有効に活用する。 ・学習規律の更なる定着を図る。 ・読書時間を確保したり、新聞の視写を取り入れたりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に発言したり、話し合い考えを深める学習が好きな児童が多い。 ●これまでの学習や友達の意見と比較・関連付けて、自分の考えを述べることに課題がある。	・これまでの学習を手がかりにしながら、自分の考えを書くことができる。 ・進んで自分の考えや根拠を述べたり、友達の発言と比較したりすることによって、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	・一人で考える時間を確保し、ペア、グループ、全体での話し合いなど適切な方法で対話の場面を取り入れる。 ・根拠を述べたり多様な意見を引き出したりできるように発問を工夫する。 ・電子黒板やタブレット端末を活用して、友達の考えを明確化し、比較・関連付けすることで「協働的な学び」を実現する。	・メタモジを活用して、自分や友達の考えを共有したり感想などを書き込んだりできるような環境を整備する。 ・聞き合う場面を増やし、友達の意見と自分の意見や考えを比較したり関連付けたりする。	・ペア、グループ活動を取り入れることで、自分の考えに自信がもてるようになってきた。 ・ICTの活用や聞き合う場面の確保によって自分や友達の考えを共有することができたが、比較・関連させることが難しい。	・グループ活動を増やし、感想や他者の考えを共有する機会を増やす。 ・教科に応じてタブレット端末を適宜活用する。 ・思考力を高めるための有効ツールを活用し、子ども同士の考えの共有がはかれるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、友達と協力しながら前向きに学習に取り組める児童が増えた。 ●粘り強く取り組むことに課題がある。 ●家庭学習の習慣がなかなか身につかない児童もいる。	・自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。 ・宿題や自主学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につけることができる。	・授業の最後の振り返りの方法(文章記述・記号による評価・話し合い)を充実させ、充実感や自己肯定感を味わえるようにする。 ・PBSを取り入れ、意欲的に取り組めるようにする。 ・学年便りや懇談等で継続的に家庭学習の習慣化を呼びかける。	・学習や教科のめあてに合わせて、振り返りの視点を明示する。 ・PBSを取り入れ、小さな成長や意欲的な発言を見逃すことなく、主体的に学習に向かう力、やり抜く力が身に付くよう支援する。	・自分ができるようになったことや分かったことを振り返ることができるようになった。 ・場面ごとにPBSを意識し実践することで、日々の学習の中で意欲的に取り組む児童や、自己肯定感が高まり自信を持って発表する児童が増えた。	・毎時間振り返りの時間を確保し、次時への繋がりや他教科との関連も実感できるようにする。 ・PBSを継続して取り入れる。 ・自分で思考・判断し、学んだことを表現する場面を多岐にわたり設定する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

